

この報告書は、災害教訓の継承に関する専門調査会の下に設けた小委員会において検討され、平成18年12月18日に開催された同調査会で承認されたものである。執筆は、

(主査) 宇井 忠英	北海道大学名誉教授
勝井 義雄	北海道大学名誉教授
岡田 弘	北海道大学理学研究科教授
新谷 融	北海道大学名誉教授
高橋 英勝	元上富良野町教育長
井上 勝生	北海道大学大学院文学研究科教授
一瀬 啓恵	室蘭工業大学非常勤講師
笠置 哲造	日本データサービス株式会社常務取締役

の各委員及び

南里 智之 北海道建設部土木局砂防災害課砂防グループ主任

が行い、担当は以下のとおりである。

はじめに (宇井忠英)

第1章 十勝岳火山の特徴と噴火の歴史

第1節 十勝岳のなりたちとその地形・地質 (宇井忠英)

- 1 地形の特徴
- 2 十勝岳の基盤

第2節 十勝岳噴火の歴史

- 1 古期・中期の十勝岳火山群 (宇井忠英)
- 2 新期十勝岳とその噴出物 (宇井忠英)
- 3 歴史時代の噴火 (勝井義雄)

第2章 1926年噴火活動の経緯

第1節 5月24日に至る経緯—中央火口丘形成から1926年噴火前まで— (勝井義雄)

第2節 5月24日に何が起きたか—大噴火の状況と推移— (勝井義雄)

- 1 第1回目の爆発
- 2 第2回目の爆発
- 3 9月以降の噴火

第3節 被災者の目撃・体験情報から大正泥流を復元 (南里智之)

- 1 目撃情報から見た被害実態
- 2 体験情報に基づく泥流の速度、流動深と密度の推定
- 3 目撃・体験情報に基づく泥流流下状況の復元

第3章 1926年噴火における救護・復旧活動と復興事業 (一瀬啓恵)

はじめに

第1節 救護・復旧活動とその担い手

- 1 被災直後の村の様子

- 2 泥流被害の概要
- 3 救護・復旧活動の開始
- 4 本格的な復旧活動
- 第2節 復興事業への取り組みと上富良野村内の対立
 - 1 復興方針の決定
 - 2 復興予算の決定
 - 3 吉田村長への「反対」運動
 - 4 本格的復興事業の進展
- おわりに
- 第4章 1962年、1988-89年の噴火
 - 第1節 1962年噴火とその対応（岡田弘）
 - 1 1962年噴火は規模の大きな爆発的噴火
 - 2 前回と類似の前兆があり警戒されていた1962年噴火
 - 3 1962年十勝岳噴火の発生とその対応
 - 4 立ち入り規制の解除と火山情報
 - 5 1962年十勝岳噴火から学んだこと
 - 第2節 1988-1989年十勝岳噴火までの26年間に何かなされたか
 - 1 気象庁による全国火山基礎整備計画と十勝岳火山観測所の発足（岡田弘）
 - 2 十勝沖地震に誘発された十勝岳の火山活動（岡田弘）
 - 3 北海道防災会議火山専門委員会創設と火山防災に関する北海道方式の進展（岡田弘）
 - 4 1988年噴火までの中期的な事前減災対策—1985年ネバドデルルイス山の影響—（岡田弘）
 - 5 ネバドデルルイス火山の泥流災害（勝井義雄）
 - 6 緊急避難図の作成配布（勝井義雄）
 - 第3節 1988-89年噴火の監視・観測（岡田弘）
 - 1 1988年噴火開始直前までの火山活動
 - 2 水蒸気爆発から小型火砕流噴火へ
 - 3 クリスマス・イブの噴火危機と見えない噴火の対策
 - 4 火砕流噴火の認知と火山情報
 - 5 直前予知可能な噴火にどう対応するか
 - 6 困難だった課題
 - 7 1988-1989年噴火から現在までの十勝岳の火山活動
 - 第4節 地域防災計画の策定・緊急避難図の配布（高橋英勝）
 - 1 地域防災計画の策定と緊急避難図の作成
 - 2 緊急避難図を全戸に配布したことの効果
 - 3 緊急避難図の配布による課題と教訓
 - 4 1988-89年噴火で得られた行政の防災対応についての教訓
 - 第5節 住民の避難と避難解除（一瀬啓恵）
 - 1 美瑛町における住民の避難
 - 2 避難命令の解除をめぐって
- 第5章 火山災害の予防減災に挑んだ北海道・土木技術者集団

- 第1節 “減災社会の地域構築を砂防が支援”に向けて（新谷融、笠置哲造、南里智之）
- 1 火山性荒廃河川の土石流対策から、次回火山噴火災害の予防対策へ
 - 2 “事前の検討”が危機回避と予防減災を可能に
- 第2節 現場技術者たちが十勝岳火山砂防に求めたものは（新谷融、笠置哲造、南里智之）
- 1 現場技術者たちが求めた火山砂防技術研究
 - 2 現場情報の集積による既往泥流痕跡の発掘研究
 - 3 砂防対策の自己点検
 - 4 地域社会における砂防緑地再生技術の開発と社会教育への参画
- おわりに ～十勝岳噴火の教訓～（全委員、執筆協力者、事務局）
- 1 十勝岳噴火災害事例を広く後世に継承する
 - 2 十勝岳噴火災害対応を通じて得た教訓

資料編

参考文献一覧

宇井委員は、報告書全体の確認を行った。

なお、事務局の担当は以下のとおりである。

（事務局）	荒木潤一郎	内閣府災害予防担当企画官
	浦川 俊弘	内閣府災害復旧・復興担当（平成18年3月まで）
	齋藤 賢一	内閣府災害応急対策担当（平成18年3月まで）
	藤田 亮	内閣府災害予防担当
	仲島 竜哉	内閣府災害復旧・復興担当

平成19年3月

内閣府政策統括官（防災担当）

本報告書のとりまとめは、財団法人日本システム開発研究所に委託し、実施した。